



一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属
総合南東北病院

〒963-8563 福島県郡山市八山田七丁目115番地
<http://www.minamitohoku.or.jp/>

お問い合わせ・お申し込み TEL.024-934-5415

総合南東北病院
内科専門医研修プログラム



目次

1 プログラムの理念・使命	p03
2 研修プログラムの概要	p05
3 専攻医の募集定員と専門研修指導医数	p06
4 研修の具体例	p06
5 総合南東北病院(基幹施設)における手術件数、検査件数など	p07
6 病院長からのメッセージ	p09
7 内科専門医研修プログラム統括責任者からのメッセージ	p11
8 総合南東北病院の各専門科紹介	p12
9 専攻医の声	p16
10 ジュニアメンターの声	p16
11 カンファランス	p17
12 教育環境・学会発表、論文指導について	p18
13 内科医に必要なコアコンピテンシー	p18
14 専攻医研修の評価・フィードバック	p19
15 プログラム管理委員会	p21
16 専攻医の就業環境について	p21
17 採用について	p22
18 施設群の紹介	p23
19 院内・サービス施設など	p25
20 事業所内保育所	p26



本プログラムの理念(整備基準1)

① 必要に応じた可塑性のある内科専門医として 福島県全域を支える内科専門医の育成を行う

本プログラムは、福島県県中地区医療圏の中心的な急性期病院である総合南東北病院を基幹施設として、福島県立医科大学附属病院・東北大学病院・獨協医科大学病院・太田総合病院附属太田西ノ内病院・白河厚生総合病院・飯塚病院を連携施設とし、内科専門研修を経て福島県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として福島県全域を支える内科専門医の育成を行います。

② 標準的かつ全人的な 内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得

初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間(基幹施設2年間+連携施設1年間)に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系Subspecialty分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります。

そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全的な医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

本プログラムの使命(整備基準2)

① 臓器別専門性に著しく偏ることなく全的な内科診療を 提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行う

福島県県中地区医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、①高い倫理観を持ち、②最新の標準的医療を実践し、③安全な医療を心がけ、④プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。

② 地域住民、日本国民を生涯にわたって 最善の医療を提供してサポートできる研修を行う

本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

③ 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて 地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行う

④ 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち 臨床研究、基礎研究を実際に実行する契機となる研修を行う

プログラムの理念・使命



研修プログラムの概要

本プログラムでのトレーニングは、総合南東北病院と6か所の連携施設により構成される専門医研修施設群で行います。

本プログラムの最大の特徴

1

バランスのとれた内科研修の提供

福島県内の最前線で、地域医療を担うアクティビティーの高い病院はもちろん、大学病院などでアカデミックかつレアな症例も経験可能です。地域や医局、診療科目の垣根にとらわれないバランスのとれた内科研修を提供します。

2

希望に応じた研修プログラム

各専攻医の希望に応じた研修プログラムを組むことが出来ます。

総合南東北病院専門医研修プログラム連携施設群(6施設)

- ① 東北大学病院
- ② 福島県立医科大学附属病院
- ③ 太田総合病院附属太田西ノ内病院
- ④ 白河厚生総合病院
- ⑤ 獨協医科大学病院
- ⑥ 飯塚病院



POINT

研修期間3年間(基幹施設である当院:2年間+連携施設を選択:1年間)に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能を修得します。



専攻医の募集定員と専門研修指導医数

2021年度
専攻医募集定員

3名

専門研修
指導医数

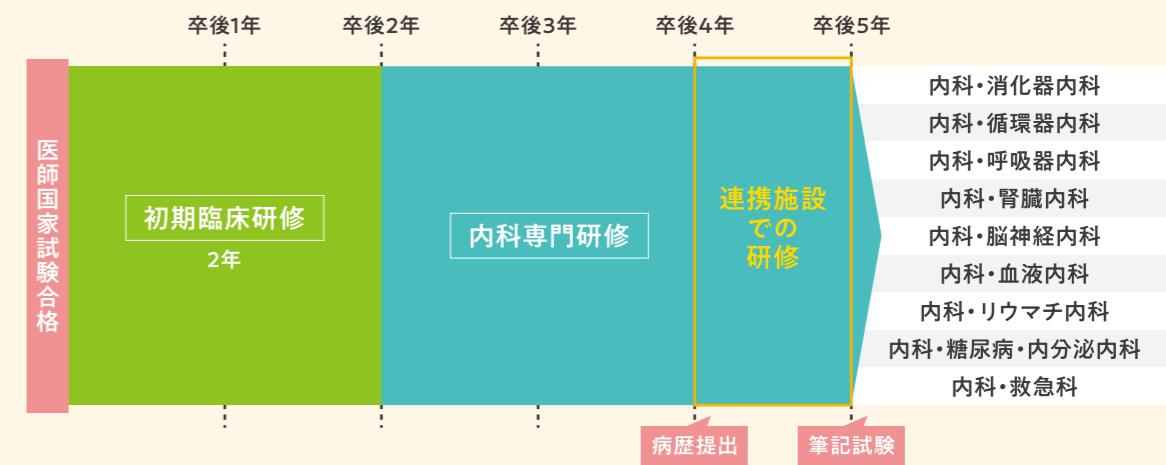
12名



研修の具体例

総合南東北病院内科専門研修施設群(地方型一般病棟のプログラム)

研修期間 3年間(基幹施設2年間+連携施設1年間)



各内科専門研修施設の内科13領域の研修の可能性

各研修施設病院での内科13領域における診療経験の研修可能性を3段階に評価しました。

● 研修可能 ▲ 時に研修可能 × ほとんど研修不可能

病院	科目	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	脳神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
総合南東北病院	●	●	●	▲	●	▲	●	●	●	●	●	▲	●	●
東北大学病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
福島県立医科大学附属病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
太田西ノ内病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
白河厚生総合病院	●	●	●	●	●	●	▲	▲	●	●	●	●	●	●
獨協医科大学病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
飯塚病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●



総合南東北病院(基幹施設)における手術件数、検査件数など

基幹施設の総合南東北病院では、様々な分野で数多くの経験ができます。
具体的な手術件数、検査件数などについて示します。

2019年度 手術件数、検査件数など

▶ 消化器内科

上部消化管
内視鏡検査

13,563 件

うち

ESD:胃 188件
ESD:食道 39件
緊急内視鏡 330件
超音波内視鏡検査 363件

下部消化管
内視鏡検査

5,335 件

うち

ESD:大腸・直腸 64件
緊急内視鏡 105件
内視鏡の大腸ポリープ切除術
1,163件

脾胆道系
内視鏡検査

530 件

※治療を含む

腹部
超音波検査

5,985 件

▶ 循環器内科

心臓
カテーテル
検査

1,205 件

(うち小児 12件)

心カテーテル
治療
(PCI)

255 例

(うち緊急PCI 89例)

前年度までの実績
2016年度 844件(うち小児28件)
2017年度 899件(うち小児21件)
2018年度 1,147件(うち小児16件)

アブレーション
治療

165 例
(うち心房細動 127例)

▶ 呼吸器内科

気管支
内視鏡検査

147 例

▶ 脳神経内科

難病患者数
(新規)

183 名

難病患者数
(更新)

1,119 名



病院長からのメッセージ



世界に羽ばたいていく
姿を見ることに勝る
喜びはありません

総合南東北病院 病院長

寺西 寧

Yasushi Teranishi

メッセージ

総合南東北病院の内科専門医研修に興味をもっていただき感謝いたします。当院は1981年に南東北脳神経外科病院として開業し、今年で創立40年を迎えます。現在は総合病院として発展を続け、各々の診療科は福島県でもトップクラスのレベルまで成長しました。内科系としては循環器、消化器、呼吸器、脳神経内科、総合内科など後期研修医を教育する体制が整っています。そして現在2名の内科研修医が在籍し、研修を行っています。

ヒボクラテスの残した有名な言葉に「医師には三つの武器がある。一に言葉、二に薬草、三にメスである」という名言があります。このことからわかるように、医師として最初に身に付けるべきは内科的知識であり、どんな診療科であれ、全身を総体的に診ることができなければ、患者の治療は不可能であると説いています。福島県は東日本大震災の影響と、また100年に一度といわれる新型コロナウイルス感染症のために、その治療を支える内科医不足は深刻な状態であります。新型コロナウイルス感染症に対する診療には、いかに内科医療が大切であるかを再認識させられることになりました。院長である私は、もともと外科医ですが、このヒボクラテスの残した言葉に、今更のように内科学の重要性を痛感しています。

当院における内科診療の特徴を挙げます。先ず循環器内科では、特に不整脈に対するアブレーション治療で東北における草分け的な存在となり、心臓カテーテル症例は県内ではトップクラスです。次に、消化器内科における内視鏡症例数(ESDを含む)は県内で最も多く、研修医にとって数多く内視鏡を経験することができる修練の場としてお勧めします。さらに脳神経内科の歴史は古く、多発性硬化症センター、パーキンソン・てんかん専門外来などを開設し、地域の神経疾患治療をリードしています。また急性期脳血管疾患の救急対応を脳外科と共に治療にあたる体制がとられており、研修にとっては魅力的でしょう。呼吸器内科は間質性肺炎の専門的治療を中心に、悪性腫瘍、喘息など幅広く診療を展開し、県内では呼吸器疾患治療の中心的役割を担っています。最後に強調しておきたいことは、総合内科の診療・教育に特に力を入れているということです。本来、どのような診療科の医師においても、基本であるべき内科診断学(特に急性期診断を重視)を身に付けることによって、真に臨床に役に立つ後期内科研修医を育てることを最重要課題としています。

また当院は放射線治療(陽子線、BNCTなど)において、全国～全世界へ展開している施設であり、難治性悪性腫瘍の治療など他には例をみないほど多彩で、学ぶべき症例を数多く経験することができます。

以上のように当院における内科研修は、がん・心疾患・脳卒中の三大疾病を豊富に経験することが可能です。さらに各診療

科の垣根が低く、横断的な議論と治療が可能となっており、これから求められる臨床重視の教育に適していると自負しています。そのうえ、内科専門研修プログラムの目玉は、全国の著名医療機関と連携していることです。どの連携施設で研修を行っても、充実した内科医生活を送ることができ、そこから一生を通じて語り合えるたくさんの仲間ができると思います。総合南東北病院は福島県内全域、郡山市(周辺人口を含め50万人超)の医療を担う第一線の基幹病院であり、若手医師は皆、忙しくも充実した日々を過ごしています。また郡山は、東京から新幹線でわずか1時間20分の好条件の場所にあり、福島県の大自然は皆様の想像以上に風光明媚で、勉強ばかりではなく温泉、スキー、海水浴、釣り、ゴルフなどメリハリをつけて心身をリフレッシュできる環境です。そして、病院の周囲には繁華街もあり当地の日本酒の種類と味は日本一です。

これから内科医を志すたくさんの若者が、多様な価値観の人たちで構成されている総合南東北病院で研鑽を積み、世界に羽ばたいていくことを期待しています。ぜひ当院での研修に興味をお持ちになった方は、一度見学に来てください。

【専門医・指導医】

医学博士

日本外科学会専門医

日本外科学会指導医

日本消化器外科学会指導医

【専門分野】

消化器がんの治療

外科と放射線治療のコラボレーション





内科専門医研修プログラム統括責任者からのメッセージ

出来るだけ
たくさんの症例を
経験してください

脳神経内科

金子 知香子

Chikako Kaneko



メッセージ

若い時は出来るだけたくさんの症例を経験してください。守備範囲を決めるのは自分自身です。当院は軽症例から重症例まで幅広く経験することができます。医師不足に悩む地方都市の中核病院であり、症例や手技の取りあいはありません。臨床の出来ない医師にならないように、臨床の基礎から難病・重症例の対応まで丁寧に指導します。

脳神経内科では脳卒中、神経免疫疾患、神経変性疾患、神経感染症、神經筋疾患など神経救急から慢性期まですべてを経験できます。グループ制ではないため多種類の疾患を同時に経験する事も可能です。福島県立医科大学名誉教授である山本悌司先生、現・福島県立医科大学医学部多発性硬化症治療学講座・藤原一男教授が在籍され、系統だった神経診察の指導、学会発表・研究・論文指導をしています。

若い時の3年間は貴重です。臨床経験を積んだ後、大学院進学、また修練のための他院への移動など様々な進路にも柔軟に対応できる病院です。出産・育児・介護、また自分自身の病気といったライフ・イベントへのサポート体制も整っています。臨床医を目指す方、大学院に進む研究テーマを探している方、ぜひ貴重な3年間で一緒に研鑽を積みましょう。

本プログラムの特徴

基幹施設である当院は、福島県県中地区医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病病・病診連携の中核です。地域がん診療連携拠点病院であり、定期的な勉強会を開催しています。また、週1回キャンサーサポートを開催し複数科によるがん診療を可能にしています。陽子線治療センター、BNCT(ホウ素中性子捕捉療法)センターを併設し、先端医療の提供を可能にしています。地域に根ざす第一線の総合病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映した複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携、診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。

【専門医・指導医】

日本神経学会神経内科専門医・指導医
日本脳卒中学会専門医・指導医
日本認知症学会認知症専門医・指導医
日本内科学会総合内科専門医、内科認定医

【専門分野】

脳神経内科全般
脳梗塞
認知症



総合南東北病院の各専門科紹介

今後3年間の研修が
医師としての
人生の原点となる

循環器内科

小野 正博

Masahiro Ono



メッセージ

循環器内科の診療は循環器疾患ばかりではなく、内科領域全般を網羅する知識・経験が求められます。循環器内科医にとってカテーテルを用いた検査・治療は、現在の循環器内科領域では不可欠な手段ではありますが、これは広範な仕事の中の一部に過ぎないと考えております。当科では外来・救急診療から入院診療、さらには退院後の社会復帰のためリハビリテーションスタッフやソーシャルワーカーとの綿密なミーティングを行っております。循環器内科医には、このチーム医療の司令塔として総合的な力量が求められています。当院では心臓血管外科と連携し、心臓循環器センターとして診療を行っています。それにより、循環器内科のみでは薄い診療に厚みを持たせることができます。当科のスタッフは循環器内科医7名の他、これをサポートする臨床工学技士5名での態勢となっています。直近2020年の年間冠動脈インターベンション255件、カテーテルアブレーション155件、デバイス治療は101件でした。決してハイボリュームとは言えませんが、質においては十分に地域医療に貢献しているものと自負しております。

現状ではハイブリッド手術室が未設置のためTAVIは行えませんが、現在これ可能とすべく心臓血管外科と協同で動いております。近い将来設置可能になるものと期待しております。

今後3年間の研修が、皆様の長い医師としての人生の原点となるのは間違いありません。当初はつらい研修となるかも知れませんが、3年目にはきっと恥ずかしくない医師となっているものと考えます。そのためには継続することが大切です。継続するためには強い精神力も必要ですが、それ以上に、仕事に楽しみを見出すことではないかとも考えております。楽しみがあれば、継続することは容易です。医療の最大の楽しみは、患者さん・家族に喜ばれることにあるのだと思い続けています。この楽しみを皆様と共有できれば幸いです。ぜひひとも、参加をお待ちしております。

【専門医・指導医】

日本循環器学会専門医
日本不整脈心電学会不整脈専門医
日本心血管インターベンション治療学会
名誉専門医

【専門分野】

循環器疾患診断治療
とくに、不整脈治療



熱意のある 後期研修医の応募を お待ちしています

消化器内科
西野 徳之

Noriyuki Nishino



メッセージ

当院は消化器内科と消化器外科が密接に連携し、消化器センターとして診療を行っています。さらに、内視鏡検査技師がしっかりサポートしてくれますので、内視鏡診療と処置は盤石です。

消化器内科は若手を中心に少数精鋭の医師が、速やかな検査の対応と的確な診断、そして確実な治療を行っています。例えば、夜間・休日に救急外来に吐血症例が搬入され、内視鏡技師を招集した場合、30分以内には緊急内視鏡を開始することができます。また、当院の医療検査機器はCT:6台、MRI:7台、PET:5台（内1台は最新型の半導体PET）を備え、救急外来患者でなくとも新規受診患者の検査のほとんどは当日に行うことができます。

当院はがん拠点病院でもあり、陽子線治療などの放射線治療を積極的に行っていることから、海外を含め全国からがんの患者さんが受診されます。耳鼻咽喉科とも連携し、口唇・口腔及び咽頭がんなどの多くの症例も病変の評価と同時に、多発がんの精査のために内視鏡検査を行っています。

消化器の研修には多くの症例を診察し、多くの内視鏡を経験しなければ研鑽は積めません。当院の後期研修医3～5年目の1年間の検査件数は上部内視鏡1,500～1,800件、下部内視鏡500～800件ぐらいです。これだけの検査ができるだけ2・3年で中堅医師と同等のことができるようになります。Polypectomyはもちろんのこと、出血性胃潰瘍の止血処置、早期胃がんのESDなども5年目ではひとりで治療を完遂できるレベルを目指しています。

消化器内科のエキスパートを目指そうと考えている熱意のある後期研修医の応募を、心よりお待ち申し上げます。また、2・3か月間集中して内視鏡研修を実施したいという方も、相談に応じます。

【専門医・指導医】

日本消化器病学会専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本胆道学会指導医

【専門分野】

消化器疾患診断治療
胆脾疾患・炎症性腸疾患・便秘
腹部単純X線写真診断
苦痛のない内視鏡



我々と共に日々学び 日々成長する生活を 過ごしてみませんか？

救急総合内科
小林 奏

Susumu Kobayashi

メッセージ

救急総合内科では、救急搬送患者の初期対応から各専門科への橋渡し、各専門科との隙間にあら問題や感染症などの横断的問題への対応を、研修医への教育を中心に考えてスケジュールを組んでいます。具体的には研修医へのレクチャーや救急総合内科外来・病棟での現病歴の取り方、診断に結びつくためのプレゼンテーション練習、グラム染色の実践と解釈、プロトコルをまとめて鑑別を挙げ診断に迫る臨床推論の共有、救急外来での救急搬送患者対応、集中治療室での重症患者管理、研修医自身が担当した症例検討カンファレンスでの指導を行っています。

当科は2020年10月に発足しました。発足後数ヶ月とまだ短期間ですが、診断した症例や担当症例には下記などがあります。

【診断症例・担当症例】

脊椎関節炎、副腎不全、パラコート中毒、脳腫瘍（転移性、腺癌）、フルニエ壊疽、つつが虫病、肋軟骨炎、非骨傷性脊髄損傷、カタトニア、劇症1型糖尿病、細菌性髄膜炎、肝臓病、Behcet病、全身性エリテマトーデス、感染性心内膜炎、急性骨髄性白血病、肺癌、悪性リンパ腫、巨細胞動脈炎、顕微鏡的多発血管炎、IgA血管炎、感染性壞死性臍炎、肺アスペルギルス症、レジオネラ肺炎、前立腺肥大症、胸椎硬膜外臍炎など

当院は郡山地区救急搬送受入台数1位で、年間約6000台の実績を誇ります。そのため初期診療で、迅速な診断が必要な重篤な疾患にも多く遭遇します。救急対応でもスピード重視で、可能なかぎりの病歴情報と身体所見、検査結果から臨床推論を経て病態にせまり、マネージメントできるスタイルの確立が今後の展望で重要だと考えています。

救急総合内科での研修を経て成長した医師が専門医になり、後々恩返ししていただければ大変嬉しいです。またジェネラルマインドを持った専門医集団が実現できれば、あらゆる病気に対応ができ今まで以上に症例が集まり、活力みなぎる医師が集う病院になると期待しています。我々と共に日々学び、日々成長する生活を過ごしてみませんか？何でも前向きな姿勢で即実行する、パイヤリティに満ちあふれた医師をお待ちしています。



専攻医の声

他科との連携の しやすさも魅力です

脳神経内科

糸谷 拓也
Takuya Itotani

メッセージ

当院は34の診療科を擁しており、約53万人からなる福島県県中地区医療圏などから多くの患者さんが来院され、さまざまな症例を経験できます。また各科の垣根は低く、他科との連携のしやすさも魅力です。一部足りない科の症例に関しては、関連病院の専門家で責任を持って症例を経験させてもらうことができます。



【卒業年】2017年 【出身大学】千葉大学
【後期臨床研修】総合南東北病院

上級医からのフィードバックが 常に受けられる環境

消化器内科

永橋 堯之
Takayuki Nagahashi

メッセージ

消化器内科では、内視鏡検査や処置の件数をこなすだけでなく、上級医からのフィードバックが常に受けられる環境にあります。カンファレンスも充実しており、多種多彩な症例の中で研鑽を積みたいのであれば、非常に魅力的なプログラムだと思います。



【卒業年】2018年 【出身大学】福島県立医科大学
【後期臨床研修】総合南東北病院



ジュニアメンターの声

確実に実力がアップする 環境があります

消化器内科

濱田 晃市
Kouichi Hamada

メッセージ

消化器内科では、東北地方でも屈指の内視鏡治療件数を誇り、治療の質・量とともに十分に学ぶことが出来ます。さらに動画でのフィードバックもあり、確実に実力がアップする環境があります。また、国内留学が可能で、皆さんのキャリアプランを支援します。臨床研究も可能で、論文実績を上げている仲間もいます。



【専門医・指導医】日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化管学会胃腸科専門医、内科認定医
【専門分野】消化管治療

**最も必要な能力は
患者さんの気持ちに
寄り添う人間力**

呼吸器内科
近江 史人

Fumito Oumi

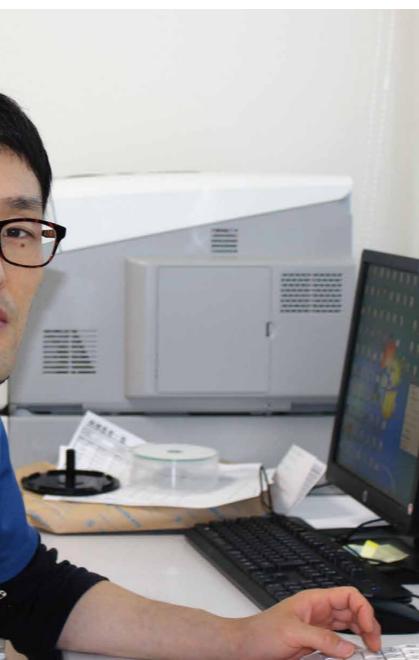
メッセージ

当院呼吸器内科は、肺炎など呼吸器感染症をはじめ、COPD、喘息、肺悪性腫瘍、間質性肺炎など急性期から慢性期まで、呼吸器疾患を幅広く診療しております。

令和2年度現在、常勤医は1名のみですが、呼吸器外科との協力の下、気管支内視鏡検査は年間約150例程度施行し、また局所麻酔下胸腔鏡検査も積極的に行っております。郡山市内のみならず、県東部や南部など遠方から多くの患者さんが来院されます。そのため、症例は豊富でバラエティに富んでおります。急性期の人工呼吸器管理から、慢性期医療およびターミナルケアまで幅広く経験できるため、呼吸器内科志望医のみならず内科を志す方にとっても、より良い経験の場になるのではないかと思われます。

呼吸器内科という診療科については、難しい・忙しい・治らないなど様々な負のイメージを持つ方が多く、メジャーと言われる科でありながら、循環器内科や消化器科と比べると今ひとつ人気がありません。例えば救急外来等での、胸部X線撮影や胸部CT検査の結果、得体のしれない陰影を見てしまうと、一刻も早く紹介してしまいたい気持ちになるのも分かります。しかし、特に将来は東北地方を生活の拠点にしようと考えている先生であればなおさら、地方には呼吸器内科医師が常駐していない病院も多数あります。将来もしかしたら、呼吸器疾患を主治医として診なければならぬ日が来るかもしれません。確かに専門でなければ、対応が難しい疾患があることは勿論です。でも実際は呼吸器疾患の多くは、それほど専門性が必要でもなく、慣れてさえしまえば数年程度の臨床経験で十分に対応可能と思われます。

いちばん伝えたい事は「呼吸器内科医にとって最も必要な能力は、患者さんの気持ちに寄り添う人間力である」という事です。これは全ての医療人に共通する事だと思います。当科研修中に、呼吸器内科の知識や技術を全て学べるものでは到底ありませんが、呼吸器疾患への恐怖心を無くし、少しでも慣れ親しんで頂ければと思います。皆様の当院内科プログラム参加をお待ちしております。



【専門医・指導医】
日本呼吸器学会呼吸器内科専門医
日本内科学会総合内科専門医

【専門分野】
呼吸器疾患診断治療



11

カンファランス



カンファランスは院内全体のもの、領域・臓器別、診療科別にそれぞれ行っており、専攻医は積極的に参加しプレゼンテーションを行います。

治療方針の決定に対しても積極的に発言できる場になっています。

1週間のカンファランススケジュール例（基幹病院：総合南東北病院 消化器内科コースの場合）

	月	火	水	木	金	土	日
7:30	朝回診						
AM	内視鏡	外来	内視鏡	内視鏡	内視鏡	内視鏡	当番制
PM	内視鏡	外来	内視鏡	内視鏡	内視鏡	内視鏡	病棟・ 救急外来 当番
夕方	内視鏡画像 カンファ	上部消化管 カンファ	消化器 キャンサポード	内視鏡処置動画 カンファ	下部消化管 カンファ	※内視鏡は治療内視鏡を含む ▶外来・内視鏡のコマ数は相談可能 ▶金・土曜は交代で休み	

12

教育環境・学会発表、論文指導について



総合南東北病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、

- ①内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します。（必須）
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPCおよび内科系Subspecialty学会の学術講演会・講習会を推奨します。

- ②経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
- ③臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。

- ④内科学に通じる基礎研究を行います。
を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。標準的な専門書、手術書なども十分に蔵書されています。和文・英文とともに内科領域のオンラインジャーナルを多数契約しています。また文献の取り寄せも可能です。症例報告のみならず、意欲があれば英文原著論文の執筆にも挑戦できます。

13

内科医に必要なコアコンピテンシー

内科医に必要なコアコンピテンシー > 倫理観 社会性 などの習熟

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となるコア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナリズム）医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること、患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとに的確な医療を目指します。医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応をマニュアルに沿って実践します。臨床の現場から学ぶ態度を習得すること、臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。



内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得

- | | |
|-------------------|--------------------------------------|
| ① 患者とのコミュニケーション能力 | ⑥ 医療安全への配慮 |
| ② 患者中心の医療の実践 | ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム） |
| ③ 患者から学ぶ姿勢 | ⑧ 地域医療保健活動への参画 |
| ④ 自己省察の姿勢 | ⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力 |
| ⑤ 医の倫理への配慮 | ⑩ 後輩医師への指導 |
- ※教える事が学ぶ事につながる経験を通して、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。



専攻医研修の評価・フィードバック

① 専攻医の評価

- 総合南東北病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)の研修手帳Web版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- 3か月ごとに研修手帳Web版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳Web版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 年に複数回(8月と2月、必要に応じて臨時に)、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は日本内科学会専

攻医登録評価システム(J-OSLER)を通じて集計され、1か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。

メディカルスタッフによる360度評価(内科専門研修評価)を毎年複数回(8月と2月、必要に応じて臨時に)行います。担当指導医、Subspecialty上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士・事務員などから、接点の多い職員5人を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適性、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は担当指導医が取りまとめ、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録します(他職種はシステムにアクセスしません)。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います。

② 専攻医と担当指導医の役割

- 専攻医一人ひとりの担当指導医(メンター)が総合南東北病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- 専攻医はwebにて日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 専攻医は、1年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める70疾患群のうち20疾患群、60症例以上の経験と登録を行うようにします。2年目専門研修終了時に70疾患群のうち45疾患群、120症例以上の経験と登録を行うようにします。3年目専門研修終了時には70疾患群のうち56疾患群、160症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
- 担当指導医はSubspecialty上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳Web版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修担当からの報告などにより研修の進捗状況を把握

します。専攻医はSubspecialtyの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とSubspecialtyの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。

専攻医は、専門研修(専攻医)2年修了時までに29症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録します。担当指導医は専攻医が合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理(アクセプト)されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修(専攻医)3年次修了までにすべての病歴要約が受理(アクセプト)されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに総合南東北病院内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

③ 修了判定基準

- A 担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて研修内容を評価し、以下①～⑥の修了を確認します。

- ① 主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全70疾患群を経験し、計200症例以上(外来症例は20症例まで含むことができます)を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録します。
修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上の症例(外来症例は登録症例の1割まで含むことができます)を経験し、登録済み
- ② 29病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理(アクセプト)
- ③ 所定の2編の学会発表または論文発表
- ④ JMECC受講
- ⑤ プログラムで定める講習会受講
- ⑥ 日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いてメディカルスタッフによる360度評価(内科専門研修評価)と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性

- B 総合南東北内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約1か月前に総合南東北病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

④ 修了判定



3年間の研修期間における年次毎の評価表および3年間の実地経験目録にもとづいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構の内科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年(3年目あるいはそれ以後)の3月末に研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定をします。

⑤ 日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)

J-OSLER

プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画(FD)の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用います。

なお、「総合南東北病院内科専攻医研修マニュアル」と「総合南東北病院内科専門研修指導者マニュアル」と別に示します。

15

プログラム管理委員会



基幹施設(総合南東北病院)に専門医研修プログラム統括責任者および管理委員会を設置します。連携施設群には、専門医研修プログラム連携施設担当者と専門医研修プログラム委員会組織が置かれます。本プログラム管理委員会は、専門医研修プログラム統括責任者(委員長)、副委員長、事務局代表者、内科の5つの専門分野(消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、脳神経内科、総合内科)、および連携施設担当委員などで構成されます。研修プログラムの改善へ向けての会議には専門医取得直後の若手医師代表が加わります。専門医研修プログラム管理委員会は、専攻医および専門医研修プログラム全般の管理と、専門医研修プログラムの継続的改良を行います。

16

専攻医の就業環境について



- ① 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ② 総合南東北病院常勤医師として労務環境が保障されています。
- ③ メンタルストレスに適切に対処する部署があります。
- ④ ハラスメント委員会が整備されています。
- ⑤ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。

17

採用について



採用方法

総合南東北病院内科専門医研修プログラム管理委員会は、毎年7月から説明会等を行い、内科専攻医を募集します。プログラムの応募者は研修プログラム責任者宛てに以下の①～④の書類を提出してください。書類選考及び面接を行い、採用を決定して本人に通知します。応募者及び選考結果については総合南東北病院内科専門医研修プログラム管理委員会において報告します。

必要書類 (各1通)

① 願書(申請書)

申請書の入手方法は下記をご覧ください。

申請書は下記のいずれの方法でも入手可能です。



総合南東北病院の
専攻医募集サイトよりダウンロード

URL

<http://resident.minamitohoku.or.jp/senmon/index.html>



E-mailにて
問い合わせ

ADDRESS kensyu@mt.strins.or.jp

② 履歴書

写真を貼付してください。

③ 医師免許証写し

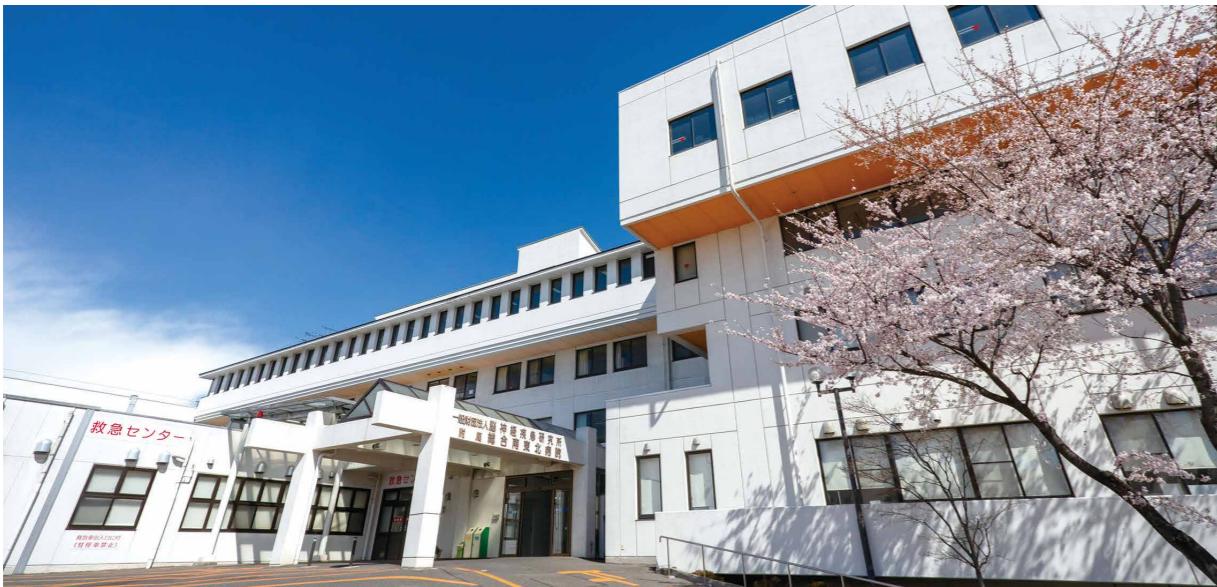
当院で卒後臨床研修を実施中の方は提出不要です。

④ 研修修了証明書

修了していない場合は研修終了見込証明書をご提出ください。

施設群の紹介

基幹施設



一般財団法人 脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院

住所:〒963-8563 福島県郡山市八山田七丁目115番地

病床数:461床

職員数:2,672名

医師数:202名

指導医数:12名

統括責任者:金子 知香子

年間入院患者数:175,189名

1日平均外来者数:1,681名 年間手術件数:8,596件

年間外来患者数:489,180名 年間救急外来患者数:19,049件

年間救急車台数:5,615台

特徴

福島県の県中地区である郡山市の中核病院です。地域医療支援病院であり、総合病院として様々な診療科を展開し、地域の医療に貢献する一方、先進医療機器(陽子線治療・BNCT・サイバーナイフ・ダヴィンチ)を積極的に導入し、全世界に向けて高度先進医療を提供しております。がん診療連携拠点病院として各科が連携し、高度ながん治療を実践しており、経験豊かな専門医師のもとに全国から患者が集まっています。東京駅⇒郡山駅間は新幹線で約80分、大阪空港⇒福島空港間も飛行機で65分とアクセスも良好です。

連携施設群(6施設)



東北大学病院

住所:〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1番1号

病床数:1,225床(内科系病床:345床)

内科指導医数:137名 総合内科専門医数:86名

専門研修指導責任者:青木 正志



福島県立医科大学附属病院

住所:〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地

病床数:778床(内科系病床:213床)

内科指導医数:81名 総合内科専門医数:51名

専門研修指導責任者:濱口 杉大



太田綜合病院附属太田西ノ内病院

住所:〒963-8558 福島県郡山市西ノ内2-5-20

病床数:1,086床(内科系病床:287床)

内科指導医数:25名 総合内科専門医数:14名

専門研修指導責任者:迎 憲二



白河厚生総合病院

住所:〒961-0005 福島県白河市豊地上弥次郎2番地1

病床数:471床(内科系病床:141床)

内科指導医数:13名 総合内科専門医数:11名

専門研修指導責任者:岡本 裕正



獨協医科大学病院

住所:〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880

病床数:1,195床(内科系病床:407床)

内科指導医数:78名 総合内科専門医数:32名

専門研修指導責任者:麻生 好正



飯塚病院

住所:〒820-8505 福岡県飯塚市芳雄町3-83

病床数:1,048床(内科系病床:570床)

内科指導医数:15名 総合内科専門医数:39名

専門研修指導責任者:井村 洋

19

院内・サービス施設など

職員宿舎



絆ガーデン

住所: 〒963-8052 福島県郡山市八山田七丁目10

南東北BNCT研究センター内

TEL: 024-934-5335

FAX: 024-934-5384

概要

「絆ガーデン」は、南東北グループ職員が一般財団法人脳神経疾患研究所の附属施設(以下、「当院」という)での研修や診療応援、出張等の為に提供する職員宿舎です。また、研修等で使用しない場合の空室は遠方より通院する患者さんやそのご家族、入院中の患者さんのご家族などもご利用いただけます。

レストラン



ボンジュール

住所: 〒963-8052 福島県郡山市八山田七丁目10

南東北BNCT研究センター 1F

営業時間: 11時00分～15時00分 / 17時00分～20時00分

※日曜定休、ディナーは完全予約制

概要

太陽の日差しが差し込む落ち着いたレストランで、シェフ自慢の本格フレンチコースやイタリアン、和食がお楽しみいただけます。

20

事業所内保育所



南東北こども学園

住所: 〒963-8051 福島県郡山市富久山町八山田字土布池55-5

TEL: 024-926-0909

入園定員200名 平成29年4月1日開園

南東北こども学園は、一般財団法人脳神経疾患研究所が運営する企業主導型保育事業 事業所内保育所(認可外保育施設)になります。

小学校就学前までの子どもの保育(体調不良児保育を含む)を行い、日中に加え休日や夜間も含め24時間365日子どもをお預かりしております。

対象年齢: 産休明けから小学校就学前の乳幼児

保育料: 0歳児～2歳児 月額33,000円

3歳児(年少)以上 無料

※給食・おやつについて、0歳児～2歳児までは月額料金に含み、3歳児(年少)以上は、別途徴収(1食400円)。